

明治維新とともに誕生した日本の鞆

現在の鞆の原型は18世紀に登場

鞆を、単にものを入れて運ぶものと規定すると、その歴史は人類の歴史と同じくらい長いものになってしまいます。江戸時代までの日本で、鞆の役割を果たしていたものには、武将の鎧よろいびつを入れた鎧櫃やくろう、医者が使っていた薬籠やなぎごうり、そして旅行のときに使った柳行李などがあげられます。

現在の鞆に近い形のもものが登場したのは、18世紀のヨーロッパといわれています。鞆の製作はその後、徐々に盛んになって、19世紀の半ばには、王室や貴族のお抱えの鞆職人が次々と独立したそうです。

諸説ある日本での鞆製作第1号

19世紀の半ばは、日本では幕末から明治維新にあたり、鎖国が解けて海外の文物が一斉に入ってきた時期。鞆もそのひとつでした。

一説では、ある馬具の職人が、外国人から修理を頼まれた鞆をまねてつくったのが、日本最初の



鞆とされています。また、フランスから持ち帰った鞆を参考につくったのが最初、という説もあります。

「鞆」はオランダ生まれ？

いずれにせよ次第に鞆の製作は本格化し、明治20年ごろには鞆専門店が登場。鞆も、学生鞆や手提げ丸型鞆など、用途やデザインによって細分化されていきました。また、オランダ語のカバスが語源とされる「かばん」という言葉も、「鞆」という文字も、そのころから一般化したといわれています。ただ鞆の語源に関しては諸説があります。

軍隊の道具がランドセルのルーツ

「ランセル」が「ランドセル」に

明治時代、東京に創設された学習院では、軍隊で使う「背はいのう」に学用品を入れて通学させていました。この背はいのうは、幕末に西洋式の軍隊制度が導入された際に、一緒に入ってきたもの。これがランドセルのルーツといえそうです。

「ランドセル」という言葉は、オランダ語で背はいのうを「ランセル」と呼ぶところから生まれたといわれ、現在まで受け継がれています。



伊藤博文が特注したランドセル

生まれた当時のランドセルは、リュックサックに近いものだったそうで、現在のようなタイプが誕生したのは明治20年のこと。時の総理大臣である伊藤博文が、大正天皇の学習院入学を祝して、

特注したものを献上したのが始まりだそうです。

世界でも珍しい日本のランドセル

その後ランドセルは、背負うことで両手が使えるなどの長所から、小学生用として広く普及していきました。特に昭和30年代以降は、全国的に普及し、日本の小学生に欠かせないものとなったのです。

ランドセルのような通学鞆が普及している国は、ヨーロッパの一部を除いて、世界ではほとんどありません。ランドセルは今や、日本で独自に進化したオリジナル商品といえるかもしれません。



ハンドバッグは紀元前9世紀生まれ!?

アッシリアがハンドバッグのルーツ

ハンドバッグの歴史は、紀元前9世紀にまでさかのぼるとか。当時、現在のイラク北部にあたるメソポタミア地方ではアッシリアという国が栄えていました。そこでつくられた有翼神像が、今のハンドバッグにそっくりのものを持っているのです。それをハンドバッグのルーツとする説があります。

中世の西洋ではポシェットが登場



そして、ぐっと時代が下って、中世のヨーロッパでは、現代のポシェットにそっくりのバッグが登場。当時のポシェットにはひもがついて、それを腰のベルトに結びつけて使っていたそうで、オモニエールと呼ばれていました。

「オフクロ」のルーツとは!?

一方、鎌倉から室町時代にかけて、日本では、一家の主婦が財産の管理をするのが一般的だったとか。財産を袋に入れて管理していたことから、一家の中心となる女性を「オフクロサマ」と呼んだそうです。それが「オフクロ」の語源とする説があります。

明治時代になると、洋服の普及とともに手提げ型の袋物が輸入されるようになりました。そして、明治時代の終わりごろに、日本のハンドバッグの原型ともいえる「オペラバッグ」が登場します。その名の通り観劇用のもので、布製でした。当時は「西洋風手提げ袋」と称され、ハンドバッグが一般的になったのは、大正の終わりから昭和のはじめにかけてのことです。

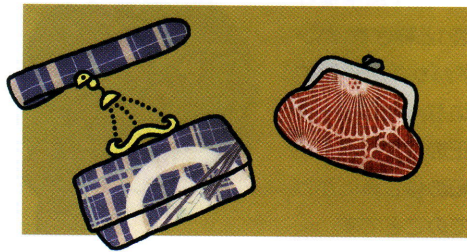


タバコ入れは明治を代表する小物

がま口や名刺入れなども新登場

小物とは財布やパスケースなどの総称で、ものの本によると、明治時代の小物、袋物の大半は「刻みタバコ入れ」だったとか。価格は4円から40円と幅があり、かなり的高級品もあったようです。当時、新たに登場した商品には、葉巻の渡来に伴う葉巻入れ、口金の輸入によるがま口、名刺入れなどがあります。

刻みタバコ入れは、巻きタバコが主流になったことから、巻きタバコ入れに姿を変えます。やがて現在のようなパッケージに入れて巻きタバ



コが販売されるようになって、タバコ入れの需要は激減したそうです。

藩札の発行とともに広まった長財布

一方、財布、特に長財布は、江戸時代に諸藩が藩札という独自の紙幣を発行するようになり、それを入れるために広まったといわれています。

明治時代に入って紙幣が発行されるようになったり、小額紙幣が発行されたりするたびに、長財布はさらに普及していったようです。また、がま口も口金の改良に伴って、売れ行きが伸びていったといわれています。

二つ折り財布は戦後の生まれ!?

そして、第二次世界大戦後の昭和20年代半ばにクレジットカードが登場したことから、クレジットカード用のポケットがついた二つ折り財布が登場。その後、クレジットカードの普及とともに急速に広まっていきました。

